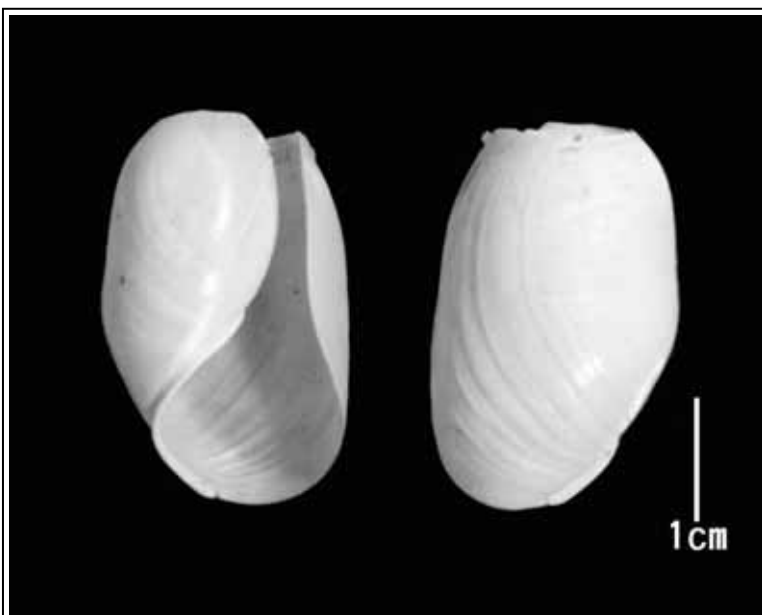


ウツセミガイ *Akera soluta* Gmelin

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底、アマモ場にすむ。戦前は比較的普通に見られたとされているが、近年全国的に産出の報告はない(和田ほか,1996)。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化して、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。またアマモ場も非常に減少している。本種については標本調査の結果、1978年に幡豆郡一色町沖のアマモ場より採集された標本が見いだされたのみで、近年の調査では死殻すら確認されていない(木村,1996:木村,2000)、和田ほか(1996)では絶滅寸前にランクされている。



幡豆郡一色町沖, 1978年, 採集者不詳

【形態】

殻長約4cm程度の樽型の貝で殻は薄く脆い。縫合部は切れ込み蓋はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内では現在全く生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド洋、オーストラリア。房総半島以南に分布する。

県内分布図



【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

現在生息は確認できない。死殻ですら採集されない。絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.